

## (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案について

(仮称) 小平市第四次長期総合計画骨子案(意見募集用)は、これまでの市民参加の取組や庁内での検討を踏まえ、小平市長期総合計画基本構想審議会を中心に取りまとめました。次期長期総合計画の全体の骨組みとなる内容を表しています。この資料では、骨子案の記載内容について補足的に説明を加えています。

骨子案に対する市民の皆様等からの意見を踏まえ、素案を作成していきます。

### 小平市を取り巻く状況

- 人口減少、人口構成の変化→現在 19 万人台(65 歳以上人口約 22%)から 2060 年代には 15 万人台から 14 万人台(65 歳以上人口約 36%)と推計
- 生産年齢人口減少に伴う市税減、高齢化に伴う社会保障関係経費の増→行政施策の優先順位付けや取捨選択の必要性
- 公共施設の老朽化に伴う更新ピーク到来
- 自然災害や気候変動に対する安全安心への対応
- 暮らしや働き方を変える Society5.0 時代の到来

### (説明)

次期長期総合計画は、市制施行 100 周年(2062 年)を見据えつつ、その通過点としての 12 年後(2032 年)にめざしていくまちの姿を、まちづくりの全ての主体が共有するものです。今後のまちづくりにあたっては、人の意識や社会経済情勢など時代の潮流を踏まえた上で、これに応じた的確な取組を推進していく必要があります。

小平市が今後のまちづくりを進めるにあたって特に課題となる事項を整理しました。

### 「小平市を取り巻く状況」に関連する審議会の意見(第 1 回から第 3 回審議会の内容から抜粋)

- ・ 少子高齢化によって社会が劇的に変わることに対する影響を見据える必要がある。
- ・ これから 2025 年問題、2040 年問題、2050 年問題と向き合っていく時代に入る。
- ・ 今後さらに高齢者が増え、生産年齢人口が減る中で、これから先の 10 年間で民生費がどれだけの額に増えていくのか。さらに令和 8 年頃から公共施設の一つめの更新需要のピークが来るとされている。人口減少・少子高齢化と公共施設・インフラの老朽化を踏まえて小平市の財政をどのように運営していくのかという長期計画が非常に大きなポイントになるのではないかと。
- ・ 今後高齢化社会の中で、公共施設の更新などを迎え、税収を維持できるように生産年齢人口、企業誘致を図っていくということと、最小の経費で最大の効果を出していくということが重要である。
- ・ 公共施設マネジメントでは施設の統廃合も含めて更新が進むのだと思うが、コンパクトにしていくまちづくりのイメージについて共有する必要がある。
- ・ 災害が予想をしていない規模で襲ってくるという経験を踏まえ、「安全安心」はどこに住んでいても考えなければならない問題である。
- ・ 住み続けるためには安全対策をしっかり行っていく必要がある。その基盤にたって、市民の生活やくらしがある。
- ・ 今ある仕事の大部分を AI 等が担うような時代を迎える。
- ・ ICT や IT といった情報科学技術、働き方改革でテレワークを推進していくことや Society5.0、サイバーフィジカルセキュリティなどに関して、市民の暮らしとの関係性という観点も必要である。
- ・ ICT、IoT、Society5.0 などをどこまで小平市の中でできるのかということについて、情報収集しながら、強弱を付けていく必要がある。
- ・ 変化が激しい時代において今のニーズがそのまま続くのか、不透明なところもあるかと思う。このあたりは中期実行プランや個別計画などで、柔軟に時期に合わせたものに変化させていくことも必要である。

## 小平市の特性

地 勢	・市域全体が武蔵野台地上に位置し、標高差の少ない平坦な地形
自然環境	・玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園を結ぶグリーンロードや武蔵野の風情を残す雑木林などの自然環境に恵まれている
交 通	・市内に鉄道駅が7駅あり、都心等へのアクセス性が良い
学園都市	・7つの大学等や6つの高校をはじめ、多くの若者が集まる学園都市である
地域資源	・新5千円札の肖像にも選定された津田梅子、ブルーベリーなどの季節の果物や農産物、昔ながらの丸ポスト、小平ふるさと村などの文化施設といった多様な地域資源が存在する

### (説明)

「量から質を意識した次なる豊かさを求めていく（「(仮称)小平市第四次長期総合計画策定の基本方針について」1ページ目) ためには、限られた資源の最大限の活用と新たな価値の創出を意識することが重要です。また、小平市らしさをいかしたまちづくりが、まちへの愛着や誇りにつながります。

これまでの市民参加の取組の「小平市の好きなところ」に対する意見から、今後のまちづくりにおいて魅力(強み)となる要素を整理しました。

### (意見例)

- ・「坂が少なく、買い物に行くにも便利」、「自然災害が少ない」等⇒地勢
- ・「緑に囲まれていて落ち着いている」、「玉川上水などの緑に癒される」等⇒自然環境
- ・「都心へのアクセスがよい」、「交通の便がよい」等⇒交通
- ・「学生(若い人)が多い」、「学生が多いと活気がある」等⇒学園都市
- ・「丸ポストが多くてまち全体の景色が優しい雰囲気」、「野菜の直売所がある」等⇒地域資源

### 「小平市の特性」に関連する審議会の意見(第1回から第3回審議会の内容から抜粋)

- ・武蔵野台地のほぼ中央に位置しているということも強みとして出しながら、災害対策、防災に関して、強化していくという決意を見せていくことは必要である。
- ・緑がずっとつながっている道とそれを取り巻く玉川上水というのはとても魅力的である。
- ・これが小平市の緑だという分析が必要。
- ・小平市全体が緩やかで、都心でもなく、一方では利便性もよく住みやすい。
- ・大学がこれだけあるということは、市民の方へのリソースがそれだけあるということである。
- ・小平市にある資源、よいところを伝えていくということをまちづくりの基本に考えている。
- ・玉川上水と狭山・境緑道、野火止用水があり、地域資源をいかしたまちづくりとしてよい環境である。
- ・文化都市の要素の一つとして、「津田梅子ゆかりの地」が入るとよい。
- ・市民アンケート調査の結果によると、小平市に住み続けたい理由として、自然環境が良い、長年住み慣れていて愛着がある、交通の便が良いという回答が上位に上がっている。

## 基本的な理念

「わたしたちは互いに認めあい、支えあい、助けあい、安全安心に住み続けられるまちづくりのために力を合わせます。そして『ふるさと こだいら』の豊かな環境と文化を守り、育て、後世に伝えます」

### (説明)

基本的な理念は、市民、事業者、行政など全てのまちづくりの主体が共有し、大切にしたいまちづくりの姿勢です。まちづくりに取り組む際に、常に立ち返るべき基本的な考え方です。

「小平市自治基本条例」の前文では、小平市の自治について次のように宣言しています。

～私たちのまち「こだいら」は、武蔵野台地のほぼ中央に在り、江戸時代に玉川上水の開通による新田開発によって開け、水と緑豊かなまちになりました。今も玉川上水と野火止用水に囲まれ、武蔵野の自然に恵まれた住宅都市であり、多くの大学を有する学園都市でもあります。私たちは、先人が開き、長年培ってきたこのまちの水と緑豊かな環境や文化を守り、持続可能なまちをつくり、次世代へ手渡したいと願います。

私たちは、互いの人権を尊重し、違いを認め合い、いのちを大切にすることをはぐくみ、平和の実現に尽くします。

私たちは、暮らしと仕事と学びそして文化の調和のとれた豊かな地域社会を築き、住むことが誇りに思えるまち「こだいら」を目指します。

そのために私たちは、市政を議会及び市長に信託するとともに、参加や協働を通じて、市民自治のまちづくりを進めます。(略)～

この自治基本条例前文の考え方に、少子高齢化社会及び災害への備えを踏まえた「支えあい、助けあい、安全安心」を加え、整えました。

#### 「基本的な理念」に関連する審議会の意見（第1回から第3回審議会の内容から抜粋）

- ・自治基本条例の前文は、基本的に小平市としてずっと目指していくことを表していると感じる。
- ・つながり、支えあい、助けあいという視点。多様な人が共に支えあって、生きやすい社会をめざす。
- ・お互いに支えあうまちという視点。
- ・障がい者、子育て世代、高齢者、一人暮らし、子どもが安心して支えあって、助けあって、思いやりを持って住めるまちづくりと、それを持続できる仕組みを作る。
- ・支えあい、助けあいは、災害時も有効に機能する。

#### 取組の方向性

- 基本目標Ⅰ ひとが育ち、学び、新たな価値を創造するまち
- 基本目標Ⅱ 多様性を認めあい、繋がり、共生するまち
- 基本目標Ⅲ 自然と調和した、快適で、魅力あるまち
- 3つの基本目標を達成するための持続可能な行財政運営
- 重点プロジェクト

#### (説明)

基本目標は、めざす将来像（ビジョン）を実現するため、これからのまちづくりを進めるための基本的な方向性を示すものです。将来像（ビジョン）と基本目標の双方向で練り上げていくため、今後変更の可能性があります。現段階での案として整理しています。

3つの基本目標を達成するための下支えとなる持続可能な行財政運営は、これまで行財政再構築プランが担ってきた行財政再構築方針を発展的に継承するものです。

第三次長期総合計画では、「安全・安心で、いきいきとしたまちをめざして」、「快適で、ほんわかとするまちをめざして」、「健康で、はつらつとしたまちをめざして」、「住みやすく、希望のあるまちをめざして」、「健全で、進化するまちをめざして」の5つの分野に各施策を位置づけて進めてきました。基本的には、第三次長期総合計画の流れを引き継ぎつつ、分野横断的な課題が増えていることを踏まえ、3つの基本目標とそれらを下支えする行財政運営分野として整理しました。

また、市制施行100周年（2062年）を見据えた、最初のスタートを切る長期総合計画として、特に優先的かつ集中的に推進すべき内容を重点プロジェクトとして設定します。

「第四次長期総合計画の取組の方向性 基本目標Ⅰ（ひとづくり）」に関連する審議会の意見（第1回から第3回審議会の内容から抜粋）

- ・全体で子どもの育ちを支援する、子育てする親を支援する。
- ・出産期から、子育てを包括的に支援することが重要となってくる。
- ・子どもの笑顔を支える。
- ・子育て家庭が孤立することのないよう、地域と関わりを持ちながら安心して子育てができる環境づくりが必要。
- ・コミュニティスクールの考え方は、まちづくりの基本であると感じる。
- ・小平市はコミュニティスクールが充実しており、小中連携、地域を巻き込んだ教育となっているが、基本は保護者である。保護者を含めた地域との関係を作っていかなければならない。
- ・学生や若い方々の知恵と行動力をいかす仕組み。
- ・未来を担う子どもたちをはじめ、大人にいたるまで教育といわれる分野に力を注ぎたい。さまざまなことを吸収できる知的なまちでありたい。
- ・人生100年時代といわれ、働く年数が増えてくる。高齢者イコール福祉ではなく、生涯学び続けられるまちであるということをもっと打ち出していけるとよい。
- ・リタイアした方のリカレント教育の視点は、人生100年時代にも関係してくる。
- ・これだけ大学があるからこそ、生涯学び続けられるまちという考え方は重要である。
- ・人が育つまちという視点。
- ・スポーツをすることで、人の繋がりができる発端ともなる。
- ・みんなが元気で快適なまち。
- ・小平市は吹奏楽のまちでもある。表現や芸術文化といった視点は、多世代交流等様々な可能性を含んでいる。
- ・新しい価値や文化を生み出す人が育っていくというイメージが持てるとういのではないか。

「第四次長期総合計画の取組の方向性 基本目標Ⅱ（くらしづくり）」に関連する審議会の意見（第1回から第3回審議会の内容から抜粋）

- ・誰もが尊重され、その人らしい生活を送って活躍できるまちをめざしていきたい。
- ・一人ひとりの個性を尊重する社会をめざす。
- ・障害者差別解消法は、第三次長期総合計画策定の段階ではまだ施行されていない。現在まで取り組んできた内容に加え、こうした新たな視点に基づく考え方を整理したい。
- ・外国人の活躍の場などについても考えていきたい。
- ・多様性など、第三次長期総合計画では入っていなかった視点をいれていくことも必要。
- ・高齢社会を迎えるにあたり、ますます地域のサポート体制が必要。
- ・認知症の前段階において予防していくサポート等は、直近の問題として考える必要がある。
- ・家庭や家族から一歩踏み出した繋がりが必要。
- ・子育て世代や働き盛りの世代が地域と関わっていけるようなまちづくり、世代間交流ができるようなまちづくり。
- ・多世代交流が進むとよい。高齢者と若い方が一緒に活動できる、一緒にまちづくりをする、小平市はそのようなアドバンテージを持っている。
- ・市民活動を行う団体が多いというのをいかしたい。人が繋がって、支えあってという文化が根付いている。
- ・自分が必要とされる、安心できる場所は、必ず誰にも必要である。
- ・住民が主体的に地域課題を把握して、その課題を解決する体制づくりをする。
- ・自主防災組織も、もっと増やす必要がある。

「第四次長期総合計画の取組の方向性 基本目標Ⅲ（まちづくり）」に関連する審議会の意見（第1回から第3回審議会の内容から抜粋）

- ・循環型のエネルギーを小平市の中でどのように位置づけていくかということも、12年間で示すことができるとうい。
- ・台風19号で体験したようなスーパー台風は、今後温暖化に伴って増加する。
- ・災害に強いまちづくりという点では、小平市は下水道の整備を進めているおかげか大雨でも水があふれなくなっているように感じる。
- ・第四次長期総合計画の期間では、小川駅西口再開発事業など複数の都市計画事業が進められる。
- ・駅前には利便性が高く、そのままグリーンロードやあかしあ通りなどの快適空間につながっていくメリハリのあるまちづくり。
- ・市内各駅が持つ要素の違いがあり、うまく多極化・多様化している。各地域の特色あるまちづくりをしていけるとよい。
- ・道路の整備、老朽化した公共施設への対応等、安心して暮らせる視点が必要。
- ・空き家については、まちという単位での大きな問題であり、リスクマネジメントの観点からもしっかりと取り組んでいく必要がある。
- ・小中高大学生の方のインタビューからは、バス・電車・自転車等の交通インフラについての意見が多く、日常的にまちの中を移動して生活しているという感じが伝わってくる。
- ・いざというときの安心を、公共施設に期待したい。
- ・小平市には7つの駅があり、地域のお店の良さと合わせて、最低限、生活に不便がないようにしたい。
- ・地産地消、災害時協力農地といった観点からも、農地はできるだけ残していきたい。
- ・観光としてのまちづくりに様々な人が関わり発信する、地域のブランドをデザインし発信していくことが重要。
- ・外に対する観光PRだけではなく、今住んでいる人たちに対するインナープロモーションのような取組があるとよい。